



『本は人をつくる』

突然ですが、あなたはどんな本をよく読みますか？文学、絵本、歴史、伝記、自己啓発、はたまた哲学書？ジャンルには拘らない方もいらっしゃるでしょう。そして、今あなたが読んでいる本は他の誰かが選んだものですか？たぶん違いますよね。もちろん薦められる場合もあるとは思いますが、今までの人生の中で手に取った本は、他の誰でもなく“自分が選んだもの”のはずです。CDのジャケットのように直感で選んだとしても、です。人は知らず知らずのうちに自分に必要な本を選んでいるのだと思います。

ご自身が物心ついて初めて買った本や読んだ本は、今でも憶えていると思います。私の印象深い本は中沢啓治の「はだしのゲン」です。漫画ですが戦争を題材にした本で、当時小学生の私にとってはとてもショッキングな内容でした。しかし、夢中になって読んだことを憶えています。授業のチャイムに気付かずに教室の後ろで読みふけり、先生からチョークを投げつけられたこともありました（笑）。子どもながらに「戦争は酷いこと。絶対にしてはいけないこと。」だと強く思ったものです。本に教えられた大切な事のひとつです。

❖本は大事な宝物

大人に成長するということは、知識を増やし、それを自分自身で噛み砕いて吸収し、人生に活かせるようになることだと思います。知識を得るには自ら体験することが一番ですが、本は“自分が体験できないことの知識”を得ることができるのです。例えば、坂本龍馬には会えませんが、彼がどう幕末の時代を変えていったかは知ることができます。多彩な才能を持った方々が大変な思いをして得た知識を、机上で得ることができます。失敗を成功に変える方法だって見つけれられるかもしれません。そして、自分を変える方法も…。

ミッキーマウスの生みの親ウォルト・ディズニーはこう言っています。「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝を毎日味わうことができる。」と。本は、作者の大事な“宝物”を読者にプレゼントしてくれるようなもの。ですから、本は“人の想い”でできていると思うのです。

❖本は大切な友達

大人になるには知識が必要だと述べましたが、正直なところ、本だけの知識で成長できるとは思いません。大切なことは他にもたくさんあります。ただ、人生の長い旅の中で助言をくれたり、励ましてくれたり、時には癒してくれたりと、心強い

“友”になってくれると私は信じています。なぜなら“本”は生身の人間が書いた大切な心のメッセージだからです。

表題の『本は人をつくる』は少し大袈裟かもしれませんが、本で得た知識が今の自分を少なからず支えていることは事実です。また、本を読むことは自分自身を知ることや見つめ直すことに繋がると思います。本をたくさん読んで、まだ見ぬ自分を見つけてみませんか？そして、人生を変えてしまうような素敵な本にぜひ出会ってください。図書館がそんな宝探しの場になれば、幸いです。（田代・白）